

サーサナ

第47号 仏暦2563（西暦2020）年1月28日

仏像をどう見るか

先日テレビで、淡路島にある巨大観音像が廃墟となって、崩壊がすすめばコンクリート片が付近に落下して被害があるのではないかと住民に不安を与えている様子が放映されていました。この観音像はもともと、この島出身の企業家が観光客誘致のために1977年に建立したもので、世界平和大観音像と命名され、高さ100mと当時世界最大の像として話題となりました。宗教法人の認可は得ていません。管理が杜撰（ずさん）で、展示内容が異様（クラシックカーが展示されていたとか...）であるため徐々に訪れる人もなくなり、2006年に閉館。その後、この企業家が死去し、管理者不在のまま今日に至っている、というのです。

巨大仏は世界各地にあり、世界最大は中国の魯山大仏で高さ128メートル（台座部分を含まず）、第二位はミャンマーのレイチュンセツチャー大仏（116メートル）、第三位は茨城県の牛久大仏（110メートル）となっています。また古くはバーミヤン大仏や龍門石窟などの磨崖仏など、人々は艱難辛苦して仏像を建てたり彫ったり、あるいは描いたりして、崇敬の念を表してきました。淡路島の大仏の場合、残念ながらその建立者の発意が崇敬ではなく観光誘致にあったことが問題ではなかったかと思えます。

巨大仏に限らず、ふつうの仏像についても、大切なのは崇敬の念です。私はかつて、インド・デリーの国立博物館で、展示仏像の前で五体投地を繰り返す訪問者の姿を目にしたことがあります。一般に博物館の仏像に合掌する人はあまりいません。それはこういう場では仏像は美術鑑賞の対象以上のものではないからなのでしょう。もっとも、寺院に祀られた仏像についても、日本では合掌する人は少ないように思われます。

初期仏教においては仏像は存在しませんでした。インドにはもともと尊像を作るという習慣がなかったのです。よって初期には、法輪、宝座、傘蓋、菩提樹、仏足石等が釈尊を象徴するものとして、礼拝の対象となっていました。仏

像が作られるようになったのは、釈尊入滅後500年頃、ガンダーラやマトウラーでのことです。ガンダーラ仏はギリシャ彫刻の影響を受けています。

仏像を礼拝するのは偶像崇拜ではないのか、と言われれば、そういう側面があることは否定できません。たしかに仏像それじたいはモノなのです。しかしモノとして方便です。方便とは、真実に至るための方法であり、また象徴でもあります。嘘ではありません。また方便は「方便法身之尊形」ともいわれるように、尊いカタチでもあります。究極的にはモノやカタチにとられない生き方が目指されねばなりません、それはいわば正覚成就なのですから、ふつうの凡夫である私たちには方便を欠くことは難しいことです。

ただ、蓮如（本願寺第八代宗主）は、「木像よりは絵像、絵像よりは名号」と言っています。これは、木像だとそれを実体化して考えがちになる、つまり、仏をこの木像のような姿かたちとしてイメージを固定化してしまう危うさをいっているのです。この点で、絵像は実体化の危険がやや薄らぎます。しかし名号（具体的には仏名を記した紙など）だとさらに実体化しにくくなるので、崇敬の対象としては名号がよい、ということなのです。

このように、私たちの先達は、偶像崇拜・実体化の罠を認識しつつ、なおかつ方便や象徴の重要性を鑑みてモノ・カタチを生み育ててきました。それが結果的にイコン（聖画像あるいは聖なるシンボル）として芸術的価値を有するようになったわけですが、それをデザインした仏師たちの思いはあくまでも崇敬であって、芸術家として大成しよう、というわけではなかったことに留意しなくてはなりません。

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年 慶讃懇志金のお願ひ

前号でお願いいたしましたところの「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」のための御懇志（寄付）についてご報告です。

現在66名の方々より、571,000円の御懇志をいただいております。これは当寺への割当額927,000円に対し61.6%になります。引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

ご進納に際しましては、郵便振替00880-4-68473「教心寺」をご利用下さい。会費と混同しないよう、「懇志金」とお書き添え下さい（何も書かれていない場合は会費として扱います）。

法要行事のご案内

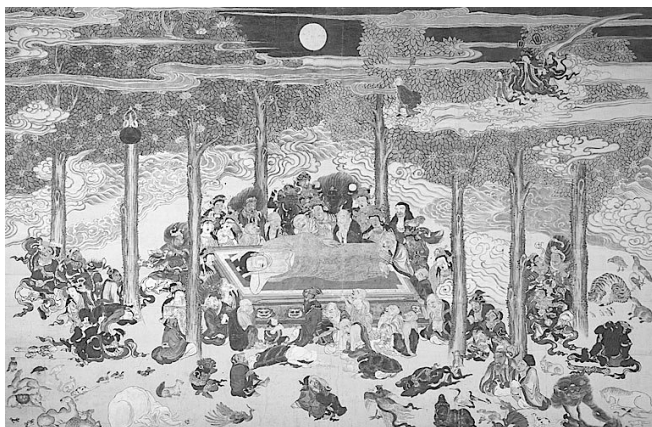
各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。念珠は必ずご持参ください。また肩衣の着用を推奨します。肩衣とは浄土真宗の仏事における正装で、本山また当寺でも授与することができます

二月 涅槃会（ねはんえ）

兼 年間物故者追弔会

涅槃会とは、釈尊の入滅（入涅槃＝完全なる安らぎである死を迎えられたこと）を記念する法要です。本法要にあわせて、2019年の間に亡くなられた当寺御門徒を追弔いたします。

（右図）涅槃図。沙羅双樹の間に釈尊が頭北面西に横臥し、その周りを仏弟子や動物らが取り囲んで悲しんでいる様子。



- ❖ 日時 2月15日（土）午後2時～4時【午後1時半より受付】
- ❖ 内容 年間物故者追弔のことば
勤行（和文仏教聖典読誦、正信偈同朋奉讃）
法話「往って生きる」（住職）
- ❖ 持ち物 『和文仏教聖典』、『正信偈同朋奉讃』（または『真宗大谷派勤行集』）
- ❖ 記念施本 青木新門『いのちのバトンタッチ』（東本願寺）

三月 春彼岸会

彼岸（ひがん）は此岸（しがん）に対することばで、悟りの世界のこと、すなわち浄土の別名です。經典に「西方極楽浄土」とあることから、太陽が真東から昇り真西に沈む春分・秋分の日、沈む太陽を見ながら浄土に思いをはせたのが由来です。

- ❖ 日時 3月20日（金）午後2時～4時
受付開始は午後1時半
- ❖ 内容 勤行（観無量寿経訓読、正信偈）
法話「終活について」（住職）
- ❖ 持ち物 『真宗法要聖典』『正信偈同朋奉讃』
- ❖ 記念品 「みほとけ ぬり絵」

四月 花祭りコンサート

花祭りは、お釈迦様の生誕をお祝いする行事で、甘茶を誕生仏に注ぎます。これを灌仏（かんぶつ）といいます。

「花祭りコンサート」は、例年通り、ピアニストの小島千加子さんをお招きし、公開行事としてとりおこないます。曲目は未定ですが、三部構成です。

- 1) 仏教讃歌
- 2) ピアノ演奏（クラシック音楽）
- 3) みんなで歌おう
（懐かしのメロディー）

- ❖日時 4月5日（日）
午後2時～4時
（8日ではありません）
- ❖内容 2時～ 受付開始と灌仏
2時半～ 開演
3時 終演
- ❖入場料 1,000円
（高校生以下は無料）



インドの仏教遺跡バールフット
出土のレリーフに描かれた六牙
象がマヤ夫人の胎内に入る図
（託胎霊夢）
コルカタ国立博物館蔵

会費の納入について

会費の期限切れの方は、更新をお願いします。皆様の納入年度は封筒宛名シール下部に記されています。1年で1000円ですが、事務軽減のため、複数年を納入していただくとたすかります。

郵便振替00880-4-68473「教心寺」、または現金手渡しで。上記「懇志金」と同時に払い込まれる場合は内訳をご記入下さい。

真宗大谷派 教心寺（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞弍（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 F A X：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>
